

名張市乳幼児家庭の災害時備蓄品の確保について

〔意見書〕

平成25年11月

名張市民生委員児童委員協議会連合会
主任児童委員部会

はじめに

東日本大震災発生から約2年半あまりが過ぎました。

被災地では災害の検証が行われ、被災地各都市・地域の復興計画が策定される中、これに基づいた詳細計画、事業計画等の検討が進められています。

今後、私たちの居住地である名張市においても、東南海地震発生時には重大な震災被害が予想され、災害時の対応について見直しが必要だと思われま

● 主任児童委員部会としての視点

名張市民生委員児童委員協議会連合会主任児童委員部会では、市から委託を受け、「こんにちは赤ちゃん訪問」事業を行っています。

この事業は、児童福祉法において、「乳児家庭全戸訪問事業」として位置づけられているもので、『育児に関する不安や悩みの傾聴、相談』、『乳児及びその保護者の心身の様子及び養育環境の把握』をすることが実施内容として含まれています。^(※1)

事業の目的は、子育ての孤立化を防ぎ、地域の中で子どもが健やかに育成できる環境整備を図ることです。

また、この事業は、すべての乳児のいる家庭を対象とするため、地域における子育て支援のニーズを広く把握することができます。このため、こうした子育て支援のニーズに関する情報等を地域の子育て支援サービスの拡充のために活かすことが求められています。『子育て支援における地域力の醸成』^(※2)

私たち主任児童委員部会は、平成23年3月の震災を契機に、「こんにちは赤ちゃん訪問」事業をとおして、乳幼児を抱えているご家庭での災害に関する意識・不安感について、定例会で情報を共有し、今後の災害発生時の子育て家庭の課題と支援のあり方について検討していくことにしました。

- 「スフィア・プロジェクト：人道憲章と人道的対応における最低基準」からの視点

「スフィア・プロジェクト」^(※3)は、人道 NGO のグループと赤十字・赤新月運動によって、1997年に「スフィア・ハンドブック」を定める目的で開始されました。

このプロジェクトの目的は、『災害援助における行動の質を向上』し、『説明責任を果たせるようにすること』にあると記されています。

そして、ハンドブックの中では、自然災害において効果的に対応するための対策についても記されています。その中では、『将来のリスクを軽減する行動を取り始める』こと、『将来の災害においてスフィアの最低基準が満たされるようにすべきである』ことが示されています。また、被災者各自の脆弱性と能力に対して公正な対応を行うことが重要だとしています。

特に子どもに関する記述では、すべての子どもが基本的なサービスを公平に利用可能とするために、特別な手段が講じられ、誰一人として人道援助から漏れることのないようにすることが不可欠であると述べられています。

「スフィア・プロジェクト」では、子どもの災害対応時について、国連子どもの権利条約を参考資料として、基準が定められています。

以下に、災害時の乳幼児を抱える家庭の支援のあり方について紹介します。

- ・ 母乳育児をしていない乳児は緊急のサポートを必要とする。
- ・ サポートは、母親、保護者、および妊婦と授乳している女性を優先すべきであり、それにより即時の重要なニーズを満たす。24ヶ月未満の子どもを有する家庭と全ての新生児の母乳育児をしている母親は、適切な食糧へのアクセスを保障されるよう、登録され、食糧確保プログラムにリンクづけられるべきである。

〈「スフィア・プロジェクト」より要約〉

本部会では、名張市の乳幼児を抱えている家庭の災害時備蓄品の確保について、検討を行ってきました。

この「意見書」は、以上の視点に基づき、「こんにちは赤ちゃん訪問」でのヒアリング結果、及び神戸市視察研修・名張市研修等の結果など、各方面の方々の意見を参考にしながら部会の定例会でまとめたものです。今後行われる防災計画等の検討の際には、この方向性や考え方に基づき、乳幼児家庭の災害時備蓄品の確保に向けて検討してください。

目 次

1. 検討の進め方	1
(1) 定例会について	1
(2) 検討の経過	1
①平成23年度	2
②平成24年度	2
③平成25年度	2
④視察研修	2
(3) 検討のまとめ	3
①「こんにちは赤ちゃん訪問」から見えてきたこと	3
②神戸市視察研修のまとめ	4
③災害時における支援の取り組みについて	7
④主任児童委員部会の取り組みとして	8
2. 全体のまとめ	9

1. 検討の進め方

防災の取り組みについては、平成23年3月度の主任児童委員部会定例会から協議を開始しました。

(1) 定例会について

名張市主任児童委員部会の定例会は、原則月1回・第4金曜日に開催しています。主任児童委員は8地区から各地区2名、市全体で16名の委員が部会活動を行っています。

定例会では、健康支援室との「こんにちは赤ちゃん訪問連絡会及び研修会」や、子育てに関する議事を中心に協議・報告を行っています。

[名張市主任児童委員]

	担当地区	名前	担当地区	名前
部長	桔梗が丘	平見 真由美	比奈知	阪口 絹子 (~H24.3.31)
副部長	箕曲	谷出 貞代	比奈知	西村 洋子 (H24.4.1~)
	名張	竹原 サヨ子	比奈知	廣谷 真由美
	名張	小林 恵美	錦 生	森川 淳子
	蔵持	長田 まち子	赤 目	藤永 孝子
	蔵持	常木 春枝	箕 曲	辻本 弥生
	薦 原	濱田 豊子	国 津	栢森 頼子
	美 旗	中森 かよ子	つつじが丘	草部 豊美
	桔梗が丘	浅田 章子		

(任期：H22.12.1~H25.11.30)

(2) 検討の経過

定例会では、平成23年度から25年度にわたり、災害時備蓄品の確保について活発な議論・意見交換や、視察研修・研修を行いました。

① 平成23年度 全8回

- ① 乳幼児を抱えている家庭の防災時の課題について
「こんにちは赤ちゃん訪問」事業から見えてくる各地域の現状の報告
- ② 主任児童委員部会としての支援のあり方について
- ③ 神戸市の防災備蓄に関する取り組みについて
- ④ 名張市の防災備蓄品について
名張市の資料より
- ⑤ 『乳幼児がいる家庭の防災お役立ち帳』の作成と配布について

② 平成24年度 全7回

- ① 神戸市災害備蓄品視察研修について
 - ・視察内容の検討
 - ・視察後のまとめ
- ② 主任児童委員部会としての防災の取り組みについて
 - ・「こんにちは赤ちゃん訪問」事業、地域のひろば事業等を活用した防災時の啓発活動のあり方について
 - ・乳幼児家庭の災害時備蓄品の確保に関する意見具申について
 - ・各地区における乳幼児家庭の把握について
- ③ 名張市の防災関係備蓄品の現状について

③ 平成25年度 全4回

- ① 乳幼児家庭の災害時備蓄品の確保に関する意見具申について
- ② 各地区における乳幼児家庭の把握のあり方と児童委員との連携について

④ 視察研修

- ① 神戸市災害備蓄品視察研修 (H24. 5. 25)
神戸市 勤労会館・神戸震災復興記念公園
- ② 災害時における支援の取り組みについて (H25. 3. 22)
講師：名張市危機管理室 深山哲郎氏

(3) 検討のまとめ

① 「こんにちは赤ちゃん訪問」から見てきたこと

① ヒアリング内容について

- ・『災害が実際に起こったら』と考えると、子どもを連れてどうなるのかと不安になる。
- ・非常持ち出し品について準備しなければいけないことはわかっているが、育児で手いっぱいを用意する気になれない。
- ・非常持ち出し品として子どもの哺乳瓶や消毒の準備をしないといけないことはわかっているが、新しいものは用意し難い。

② 定例会でのまとめ

定例会では各委員からの個別のヒアリング内容について、以上のような聞き取り内容の報告がありました。

乳幼児を抱えている家庭では、災害時の危機意識はもっているが、日々の育児に追われて、非常持ち出し品の準備ができていないという状況が明らかになりました。準備が出来ていない背景には、『無駄になるかもしれない買い物をしたくない』という気持ちを優先させてしまうことで、あらためて哺乳瓶や消毒用品の用意をするという気持ちが妨げられてしまうためのようです。

また、『もし地震が起こったらどうしよう』という不安感を持ちながら、『避難所に行ったらなんとかなるだろう』という考えを持っている家庭が多いことがわかりました。

そして、「こんにちは赤ちゃん訪問」時に避難所に災害備蓄品の備えがないことを知らせると、大変驚かれる方が多数いることがわかりました。

② 神戸市視察研修のまとめ

① 行程

日程 平成24年5月25日

目的 神戸市災害備蓄品保管場所の見学と研修

行き先 ・勤労会館（指定収容避難所 地域備蓄拠点）

・神戸震災復興記念公園（総合備蓄拠点）

講師 神戸市産業振興局職員の皆様



② 神戸市の現物備蓄について

神戸市は、市内の各備蓄拠点において、現物備蓄を行っています。

阪神大震災の発生の翌年より、市内の指定収容避難所を中心に、200～400人分の物資を備蓄し、平成25年4月1日現在で284箇所を整備が完了しているとのことでした。震災の経験により、『手に届くところに備蓄する』ことの重要性を感じたためです・・・と説明してくれました。

神戸市は従来の「拠点型備蓄」に加え、「分散型備蓄」を行っています。災害時には、指定避難所の物資が不足してきた時に、総合備蓄拠点から補充を行うということです。

災害備蓄品は、公的な施設だけではなく、民間の建物にも備蓄品を保管してもらうよう協力要請を行っているとのことでした。

保管場所については、特に管理された場所ではなく、ボイラー室等で保管してもらっているそうです。



8	体育館・トレーニング室・更衣室
7	大ホール 会議室 701-702
6	会議室 和室 音楽室 工作室 サークル室 1-2-3-4-5
5	青少年自然塾付 事務室 研修室 ロビー 2F/3F/4F/5F/6F 視聴覚室 青少年自然塾教室
4	特別会議室 広業会議室 講義室 403-404-405-406 会議室 407-408-409 手帳室
3	会議室 302-303-304-305-306-307 美術室 神戸労働者福祉協議会 講義室 308
2	数計会議室付 教室 201-202 多目的ホール 研修 特別公開
1	図書館
B1	駐車場 防災センター 作業員控室

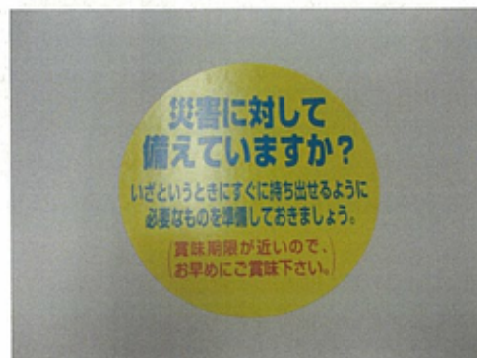


出先で災害に遭うことも想定されるため、避難所には食糧備蓄が大切だと神戸市では考えられています。災害備蓄品の管理は産業振興局が担い、賞味期限の切れる半年前に、防災訓練や消防出初式で市民に配っているそうです。その際には、備蓄品に家庭での備蓄を啓発するシールを貼ることで、「市民備蓄」の大切さを訴えているとの説明がありました。

平成24年度備蓄在庫一覧表

施設名：神戸市勤労会館 7階機械室

番号	納品日	品名	数量	ケース数	総数
1	平成24年3月6日	生理用品 ソフィ 34枚	10	1箱	340
2	平成24年3月6日	紙おむつ ムーニー 新生児 90枚	1		90
3	平成24年3月6日	紙おむつ ムーニー S 81枚	1		81
4	平成24年3月6日	紙おむつ ムーニー M 64枚	1		64
5	平成24年3月6日	紙おむつ ムーニー L 54枚	1		54
6	平成24年3月6日	紙おむつ ライフノーテープ止め M	1	1箱	20
7	平成24年3月6日	紙おむつ ライフノーテープ止め L	1		17
8	平成24年3月20日	毛布	10枚入	20箱	200
9	平成24年3月23日	アルファ化米 100g	50個入	2箱	100
10	平成24年3月23日	保存水 500ml	24本入	9箱	216
11	平成24年3月23日	缶詰	24個入	9箱	216
12	平成24年3月23日	クラッカー 26枚入	70個入	2箱	140
13	平成24年3月23日	レスキューシート 20枚入×10		1箱	200



③ 災害時における支援の取り組みについて

名張市危機管理室の深山哲郎氏を講師に招いて、名張市の災害時の支援体制について研修を行いました。

① 名張市の現物備蓄について

名張市では、「拠点型備蓄」による現物備蓄を行っています。防災センター内の備蓄倉庫にアルファ米や粉ミルク、毛布等を一箇所に集中して備蓄しているそうです。各地域の避難所へは、災害発生後に市の職員が分担して備蓄品の搬送をする計画だと説明がありました。

また、大規模かつ広域的な災害が発生した場合には、市の備蓄品の不足や多種多様な物資が必要となることも想定されています。そのため、市内の大型物販店や他の自治体等と災害時の物資応援協定を締結し、「流通備蓄」による物資の確保を迅速に行えるよう体制を確保しているとのことでした。

② その他の取り組みについて

主任児童委員部会の定例会時に、避難所の開設に関して検討課題に取り上げられていた点について説明を受けました。

地域の避難所には、『名張市洪水・土砂災害ハザードマップ』^(※4)に示されている浸水想定区域や土砂災害危険箇所等に含まれている施設もあるそうです。避難所の開設は、発生した災害の規模、状況等に応じて開設の可否を決定していくとのことでした。

また、災害時の備蓄の考え方については、市の備蓄を充実していく必要性はあると考えているとのことでした。しかし、各家庭で必要な物資は異なるため、家庭内備蓄の重要性を訴えていき、市と各家庭が相対的に備蓄品を充実していくことが最も大切であるという回答をいただきました。

④ 主任児童委員部会の取り組みとして

① 災害時の乳幼児家庭の市民備蓄についての啓発活動

- ・『乳幼児がいる家庭の防災お役立ち帳』の作成と配付

「こんにちは赤ちゃん訪問」事業での配付（平成24年4月度訪問より開始）
ひろば事業での活用（配付）

- ・関係機関への啓発活動に関する助言

② 各地区における乳幼児家庭の把握システムの検討(平成25年度検討課題)

- ・住宅地図を活用した把握システムについての研修と検討

講師：竹原サヨ子委員

- ・災害時における児童委員との連携について

乳幼児がいる家庭の
防災お役立ち帳



非常持ち出し品を準備しておきましょう・・・

- ※非常持ち出し品に負担なく持てる重さにしなすよう。
- ※準備の際は、2～3日分を目安にしなすよう。
- ※乳幼児がいる家庭では、子どもの月齢に応じた準備が必要です。
リュックの中身は成長に応じて年2～4回程度の点検が必要です。
オムツのサイズ・ミルク・離乳食等の入れ替えなど
点検日をおぼえておきましょう（例：毎月1日など）



【チェックリスト】 最も必要になる物品リストです。
各家庭で検討し、必要なものを用意しましょう。

対象者	物品	チェック欄	備考
全世帯	非常持ち出し品 リュックの中身		
母子家庭	母子健康手帳		
	保険証・診察券		コピー
	顔写真		マイズの入札控えの要
	おしりふき		
	オムツやガーゼのハンカチ（冬用は） 大判ふるしき又は ペーパータオル		下着やオムツの代用品としても利用 できます。 持ち出しリュックとしても利用
拭拭ガーゼ		母乳びんの代用品として4～5回 利用可能	
使い捨てスプーン		母乳びん・離乳食容器の代用品 として利用	
ラップ・紙コップ等			
調整乳			
飲料水			ペットボトル500ml.1～2本程度
携帯トイレ			水を溜めるため1程度
調乳用器具類 (6ヶ月～)	調乳用		月齢に応じて入れ替え必要

☆アレルギーや疾患がある場合は、必ず必要な食料や薬を忘れず
持ち出しましょう。

※その他必要なもののリスト・・・

各家庭で必要なものがあれば、リストに加えましょう。
例えば余裕があれば
プラスティック製哺乳びん・お湯びん消毒剤・指着・指・靴
子どものおやつ・おもちゃ・おんぶひも



★災害用備蓄品として、自宅やその周辺に保管する他にも準備しましょう★

発行 名張市民生委員児童委員協議会連合会
編集 名張市主任児童委員部会

2. 全体のまとめ

災害時の備蓄品の確保については、「拠点型備蓄」・「分散型備蓄」・「市民備蓄」・「流通備蓄」等があり、その体制や方法については各自治体により様々です。

災害時の食糧の確保については、乳幼児家庭においても『自分のいのちは自分で守る』ため、「市民備蓄」が重要であると、主任児童委員部会では取りまとめました。そのため、「こんにちは赤ちゃん訪問」事業での『乳幼児がいる家庭の防災お役立ち帳』の配付による市民備蓄の啓発活動を今後も行っていきたいと考えています。

しかし、災害の発生時には、必ずしも非常持ち出し品を持参して避難できるとは限りません。また、山や川の近くでの避難所の開設や備蓄品輸送の道路状況についても、予想外の困難な状況も考えられます。

平成25年9月22日に名張市が実施した名張市総合防災訓練では、各地域から市への情報伝達がうまく機能せず、相当な時間を要したと聞いています。

また、神戸市の視察研修では、震災時の「流通備蓄」が想定通りに機能しなかった実情を踏まえ、『手に届くところに備蓄する』という「分散型備蓄」の意義について部会で確認しました。

こうした検討により、主任児童委員部会では、乳幼児家庭の食糧確保を確実なものとするため、各避難所への粉ミルク・母乳の補完的食糧・水等を、各避難所へ分散して備蓄することが必要だと結論に至りました。

『手に届く』災害支援体制の確立

リスクの把握と災害対応能力の強化

- ・ 行政と地域の連携
- ・ 成果を積極的に活用した防災体制の強化

『拠点型備蓄』



『拠点型備蓄』 ⊕ 『分散型備蓄』へ

1. 指定避難所での乳幼児家庭の災害備蓄品の保管の必要性

粉ミルク・保存水・おむつ等

2. 行政・地域の連携による市民備蓄への啓発活動の強化

啓発シール・防災お役立ち帳の活用

【 注記 】

※1 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第6条の3第4項、第21条の9

※2 厚生労働省『乳児家庭全戸訪問事業ガイドライン』

（雇用発第0316001号 平成21年3月16日付厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知）

※3 『The Sphere Project 2011』

1998年 初版試行版発行

日本語版： 2001年 初版発行

2004年 第2版発行

2012年 第3版（本改訂版）発行

* 編集・発行： 特定非営利活動法人 難民支援協会

◎ 日本語版は、特定非営利活動法人難民支援協会のホームページからダウンロードできます。（www.refugee.or.jp/sphere）

※4 名張市内の浸水想定区域及び土砂災害危険個所などの最新予測や避難場所・防災関連施設等を市内15地域ごとに示した地図（A1サイズ）。

平成24年3月作成。名張市ホームページからダウンロード可

（「名張市洪水土砂災害ハザードマップ」で検索）